

# あさか外来通信

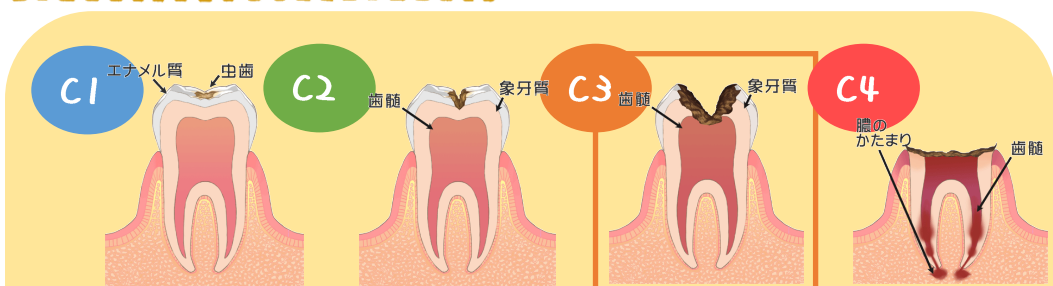
H30.5月号



虫歯治療は  
痛くなる前に!

歯医者さんは「歯が痛くなったら行くもの」だと思いませんか？実は、痛みを伴う虫歯はご自身が思っている以上に進行している可能性がありますよ!!

虫歯が痛くなるまで



虫歯には段階があり、歯科治療が必要になるのは、上記の「C1」～「C4」の虫歯です。虫歯特有のズキズキした痛みは、歯髄（神経）まで進行した「C3」の段階で生じることが多く、ここまで進行してしまった虫歯は「根っこの治療」が必要になります。虫歯の進行速度は、年齢や生活習慣、唾液の分泌量などで変わってきます。

痛くなってから治療するデメリット

治療に時間がかかる

根っこの治療（根管治療）が必要になった虫歯は、治療が完了するまでに最低でも4回～5回ほどの通院が必要になります。歯の状態によっては、それ以上通わなければなりません。歯の状態によっては、それ以上通わなければなりません。治療の回数がかかるということは、それだけ通院の負担や、治療費の負担が大きくなってしまいます。



歯の寿命が短くなる

虫歯は大きくなればなる程、歯を削る部分も大きくなります。歯は削れば削るほど寿命が短くなりますし、根っこの治療をして神経を抜いてしまった歯は「枯れ木」と同じくもろくなります。ご自身の歯を保つためには「削らない」「神経を抜かない」ということが、とても大切になります。



虫歯を進行させないためには

「食べたら磨く」を習慣にする

食べ物や飲み物に含まれる糖分は、歯を溶かしてしまう現象（脱灰）を引き起こします。本来であれば唾液に含まれる成分で、自然に歯を修復（再石灰化）してくれるのですが、長時間にわたり飲食をする方や、間食が多い方は、歯の修復が間に合わず、虫歯が急速に進行するリスクが高くなります。基本的には毎食後にしっかり歯磨きをし、間食や糖分の含まれた飲料を控えれば、虫歯は防ぐことができます。



フッ素を活用する

皆さんが普段使用している歯磨き粉の、フッ素濃度がどれくらいか知っていますか？現在市販されている歯磨き粉のフッ素濃度は、最大で「1.500ppm」です。でも実は、歯科で扱っているフッ素の濃度は、その6倍の「9.000ppm」。歯科のフッ素には、歯を強く頑丈にしてくれる効果があります。定期的に塗布することで、効果が上がっていきますよ。



※ 当院でもお取り扱いしております。

過去の外来通信・医院についてはこちら

医療法人 寛友会 浅賀歯科医院